



第 130 号

発行 者  
東筑摩塩尻教育会  
編 集 者  
会誌会報委員会

## 善光寺街道立峠に校歌が響く時

東筑摩塩尻校長 岩下 史弥



前任校の聖南中学校に赴任していた時のことである。全校生徒と教職員が善光寺街道の難所「立峠」に立った。その日は、朝から秋晴れの好天となり、一行は会田支所から会田宿を抜け、やがて「善光寺西街道」の道標に出会う。何故か道標の上半分が無くなっている。ここから真っ直ぐに峠を目指す街道となっていく。暫く行くと会田宿の入り口に大きな石灯

籠が見えてくる。「善光寺常夜燈」である。この石灯籠が宿の出入り口であり、ここにたどり着いてほっとしたり、ここから先はいよいよ難所の峠だと覚悟したり、きつと当時の旅人は様々な思いがあったことだろう。街道はいよいよ坂道が急になっていく。気がつけば目指す「立峠」は行く先前方にあり、街道は一直線にその峠に向かっていくようだ。善光寺街道には大きな峠が三つある。松本から会田に抜ける「刈谷原峠」、会田から筑北に抜ける「立峠」、そして、麻績から更埴に抜ける「猿ヶ馬場峠」である。これらの峠は計ったように三つともびつたり標高一〇〇〇メートルになっている。そして、街道はできるだけ直線のルートを選択しているのか、難所を一気に抜けようという意図か、とにかく真っ直ぐに三つの峠に向かっていく。立峠もまた、会田

から真っ直ぐ本城へ抜けようとしている。街道沿いに立派な馬頭観音があり、善光寺街道でも有数のものらしい。手を合わせて無事に峠越えができることを祈る。ここからかなり急峻な峠道となる。恐らく荷馬車では抜けられない道となるため、馬に荷物を積み替えて、人も馬も心して超えたであろう。峠道はやはり一気に上がったいく。無駄のない行程であり、健脚であれば出来るだけ短時間に超えたいという気持ちが伝わってきそう。苦しい峠道はやがてぱつと峠の頂に着く。下から上がってくる生徒に「もう少しだ。」と励ましの声をかけたくなった。

江戸時代の俳諧師松尾芭蕉もまた善光寺街道を歩いた。芭蕉にとつて、古来、観月の名所だった信州・更科の姨捨山は、どうしても訪ねなくてはならない聖地だった。その旅は「倅や姨ひとりなく月の友」の句を生み、「更科紀行」となつて伝わる。「更科紀行」では、木曾の山中を抜けると、いきなり更科の里に入ってしまう。松本やその間の宿は跳び越えられてしまつて何もでてこない。従つて、会田宿から立峠を経て青柳宿（筑北村坂北）に向かう善光寺街道の様子を伝える記述はない。

正岡子規は、松尾芭蕉の研究者としても知られているが、子規も明治二十四年六月に上野を出発し、芭蕉とは逆のルートで善光寺街道を歩いている。その紀行として「かけはしの記」を新聞「日本」に寄せた。子規は、青柳宿でも会田宿で

もなく、本城村から立峠に向かう乱橋という小村に一夜の宿を取る。体制には屈しない孤高の人であった子規の性格からして、芭蕉の足跡を追体験するこの善光寺街道も、わざと芭蕉とは逆行したのではなかるうか。そして名も無い街道沿いの小村に泊まるというのも、子規ならではのことになる。この乱橋に宿泊した様子を子規は「かけはしの記」に次のように記している。「此夜は乱橋といふあやしの小村に足をとどむ。あとより来りし四五人づれの旅客かにかくと談判の末一人十銭のはたごに定めて隣の間にぞ入りける。晚餐を喰ふに塩辛き昆布の平など口にたまりて咽喉へは通らずまして、鄰室のもてなし如何ならんと思ひやるに、たゞうまし〜といふ声のみかしがましく聞ゆ。」全く正岡子規らしい文章である。私たちは遂に全校の全員で立峠に立った。立峠からは筑北の谷が一望できた。心から願っていた光景である。この峠に立ち、ふるさと「筑北村」を眼下にして生徒は、その時何を感じ思つただろう。

聖南中学校全校生徒・教職員で肩を組み校歌を歌った。校歌の歌詞に唱われた情景が全て峠から見渡せる。私も生徒も教職員も、この一瞬の全校生徒の校歌を忘れることはないだろうと思つた。

何十年か経ち、あの子たちが立派に成人した時に、「立峠で全校のみんなで校歌を歌ったなあ。」と思ひ出して語り合つてくれたら本望である。（両小野中学校）

# 特集

## 特別の教科 道徳

### はじまりました！

## 特別の教科道徳の研究 について

山形小学校

山形小学校で私が研究してきた「特別の教科道徳」は、今年で三年目となります。

一年目の研究では、授業改善に取り組みました。児童たちに映像や写真で視覚的に情報を与え、設定した学習課題を身近に感じられるようにしました。

資料教材だけで学習課題をとらえることが苦手な児童たちにとって、視覚的にわかる映像や写真は、学習課題を自分ごととしてとらえるのに有効であったと思います。

二年目の研究では、道徳を評価するための評価の仕方や評価法について進めました。次年度から特別の教科道徳が完全実施となることもあり、早い段階で評価について準備をする必要があると考えたからです。

まずはじめに、評価の仕方について研究を開始し、次の四点を評価の仕方に位置づけました。

- ① 数値などの評価を行わない
- ② 他者との比較でなく個人内評価とする
- ③ 個々の児童生徒に注目して、以前よりどれだけ道徳的成長があったかを見る
- ④ 道徳科の授業内での学習状況や

道徳性に係る成長の様子を記述する

次に、評価法については、様々な学習会や講習会に参加し、実践しやすい評価法として次の五つを定め、実践・研究を進めていきました。

- ① 観察法
- ② 面接法
- ③ パフォーマンス評価
- ④ ポートフォリオ評価
- ⑤ エピソード評価

中でも④のポートフォリオ評価は、一学期中に行った道徳の単元の中で実践しました。そして、その評価を活用して、特によかった児童の姿を四十字程度で通知表に記載しました。

三年目は、「学習カードをもとに子どもの道徳的価値の変容を評価するには」と「道徳的価値を自分ごととして考えるための発問のあり方」を研究テーマに据え、研究を進めています。

一学期の重点研究会では、授業時数の確保や、進度の確認。そして、評価のための学習カードやワークシートの内容についての意見交換。さらに、授業内容と児童の姿について、情報を交換しました。

また、自分たちが担当している学級児童の学習カードやワークシートを重点研究会時に持ち寄り、評価文を模擬作文するなどして、すぐに実践に生かすことができる研究をしています。

その中で大切にしたいことは、評価を児童や保護者に伝わるように具体的に記述したことです。そのために明記し、道徳

的価値を自分ごととして考えたり、感じたりしたことや、文章や発言で表現する姿を記述しました。また、二学期以降は、道徳の授業で見られた児童の変容について記述を加えていきます。

今後は、「価値の自覚を深める発問」(自分ごととして考えるための発問)について、各学年で授業実践を重ね、児童が自分ごととして考えるために、どんな発問の仕方が有効であったのかを研究していきます。

また、個人課題として、児童が道徳的価値を自由な視点から多面的・多角的に発言し、その理由を語り、クラスの仲間全員でその価値について共有し、深めていく場面の充実を図りたいと考えています。

授業中、児童たちと意見を交わし合っている、教師の予想をこえた意見が出てくる場合があります。それを多面的な視点と考え、次の発問として児童たちに投げかけていく。そうすると、議論までは深まらなくても、多面的・多角的な視点や考え方を知り、共有する時間になるのではないかと、考えています。

道徳の授業は、児童たちが、それぞれ異なる道徳的価値を持ち寄り、学習が進められます。ですから、あまり形式にとらわれすぎず、児童たちが自由に考え、感じたことを発言し、その理由を語りながら自分ごととしてとらえられるような授業づくりをしていきたいと思っています。

(大西宣晴)

## 道徳の教科化に向けて

丘中学校

来年度から始まる道徳の教科化に向け

て、本校では、「考え・議論する道徳」のための授業の在り方と、すべての項目を扱うための方策の二点を中心に研究・実践を進めてきた。

### 「考え・議論する道徳」のために

友の考えを聞くことで、自分の考えを深化させたり修正したりすることや、それを記述することも「議論する(静かな議論)」と考えた。「考え、議論する」力を高めていくためには、生徒が興味・関心・意欲をもてるような学習形態を工夫していく必要があると考えた。

①ねらいに沿った学習展開にするための、発問のあり方

②自分自身の問題としてとらえるようにするための、場面絵や視聴覚機器の活用

③自分の心を重ね、価値を深めていく学習にするための、動作化やロールプレイ

④お互いの考えの違いや良さに気づけるようにするための、グループ活動

今年度、特に力を入れてきた①「ねらいに沿った発問のあり方」について、一例としては表1のようである。

### すべての内容項目を扱うために

来年度からの道徳の教科化に向けて、生徒の学びのためにも、またいわゆる履修漏れがないように、二十二の内容項目すべてを扱わなければならない。昨年度末に本校で担任にアンケートを取ったところ、実施した時間が平均で十時間をきっていた。また、内容項目ではc(16)・c(17)・c(18)・c(21)の扱いが極端に少なかった。このような実態を改善していくために、なぜ「流用」されてしまうのかを考

表1 =  
 ① 資料名 「涼風」(出版:信濃教育会出版部「わたしの暮くらしるべ1」)  
 ② 主題名 思いやり、感謝  
 ③ 内容項目B(6)  
 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。  
 ④ 略指導案

	指導案1	指導案2
学級の 実態	こうすべきだということはわかってはいるが、その思いを積極的に行動に移せる生徒は多くはない。	誰かの親切を当たり前のものだと感じ、感謝を感じられない生徒が多い。
ねらい	電車の中での場面を再現して、4人の乗客の言動に共通する気持ちや、その場面の目にした主人公の大きなため息の意味について考え、意見交換をすることを通して、勤め滞りに風鈴を買って贈るという行為について深く考え、思いやりに行動に移すことの大切さに気づくことができる。	資料を読み、登場人物の言動と表情について考え、親切と感謝が人から人へどうつながっていく内容の動画を視聴することを通して、感謝の言葉を相手に伝えることの意味、だれかに親切にすることの大切さに気づくことができる。
中心発問	啓次さんはどんな気持ちでため息をついたのだろうか。	電車内のやりとりを見ていた啓次も笑顔になったのはなぜだろう。
工夫した 点	・視聴覚機器の利用 ・役割演技	・動画の利用(「Life Vest inside」)
反省など	・全員が、ため息をついた啓次さんの役割りを体験してもよかったです。 ・自分から行動に移せる人になったという思いを持った生徒が多かった。	・親切の大切さ、感謝の言葉の大切さを理解してもらったことにも、それを理解していてもなかなか行動に移せるものはないという人間理解もできるとよかったです。

えてみた。  
 まず、よく言われるのが「学年行事の準備にあてる」ということである。しかしながら本校では道徳はスライドに組み込んであるので、学年で道徳の時間がそろうていることはない。そこで次に思い当たるのは、教材研究に時間がかかるということである。実際、道徳の授業を行う時には資料をじっくり読み、中心発問を何にするかを吟味し、生徒が自分自身の問題としてとらえやすくするための視覚化(場面絵の選定やスライドなど)の準備をする必要がある。これだけでも一〜二時間くらいは費やしてしまう。また、それだけ時間をかけても、同じ題材で授業をするのは三〜四年後になってしまふ。教科の授業では、一回教材研究をすれば、(多少の修正はあるにしても)他のクラスでも、また次の年も、同じことができる。そこで考えたことは、教科のように複数のクラスで実施すればよいのではな

## 『道徳科』としての道徳の授業

榎川中学校

いかということである。そうすれば、教師の負担も軽減でき、生徒にとってもいろいろな先生の価値観に触れながら考えていくことは、視野を広げることにつながると考えた。  
 このような授業形態(本校では「ローテーション授業」と呼んでいる)を実施するために、新年度準備の際に、複数のクラスの道徳を同じスライドに組み込んでもらえるようお願いしたが、本校では多少困難があったので、スライドが完成してから、係でスライドを組み直した。  
 まだまだ研究不足であるが、本年度の教育課程研究協議会に向けて二年間研究してきたことをさらに深めていきたいと考えている。(古田寿造)

標記の授業が、本年度より小学校で実施されており、来年度からは中学校でも完全実施となります。  
 道徳の授業は今までも行われていますが、「特別の教科、道徳」になったことで、我々が意識、実践すべき事項を、より明確にしていくことが大切だと考えます。

### 【基本事項】

- 一 授業の質的転換
  - ・「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値に向き合うとともに、自分とは異なる意見を持つ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

- ・他者との合意形成や具体的な解決策を得ることが目的ではなく、多面的・多角的な思考を通して、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていく。
- 二 考え、議論する道徳(の授業)
  - ・答えが一つではない道徳的な課題を、一人ひとりの生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う、『考える道徳』『議論する道徳』への変換を図る。
  - ・共に考え、共に語り合うことを重視した授業(展開)への改善を図る。
- 三 改善への観点・視点
  - ・生徒の発達段階を踏まえ、生徒が主体的に学ぶ内容をねらいに据える。
  - ・対話的な活動を計画的・積極的に取り入れた学習過程を仕組む。

### 【今年度の本校の重点】

- 一 思考の深まりを大切にしたい学習活動
  - ・「自己を見つめ」↓「自分の考えを深め」↓「道徳的価値を理解する」
  - ・「他者の考えを聞き」↓「自分が気づかなかつた道徳的価値を知る」
- 二 本時で提示された道徳的価値に対する意見交換、変容を自覚する場の設定
  - 『今までの自分』↓『授業/学習活動・学びを終えた)今の自分』↓『今後の(望むべき)自分』
- 三 評価に関わって
  - ・課題に対して取り組む姿勢、友と共に考え合った・意見交換した場面での態度や意欲等を、客観的・具体的に評価する。
  - ・思考や道徳的価値の深まり、新たな学びや気づき等について、ワークシート等への記述、発言内容、授業終了後の感想やまとめの内容から評価する。

### 四 留意事項等

- ・道徳の内容項目に照らし、生徒の実態(身につけているもの・こと、理解や定着がやや不十分なものと)と、学校の願い・目標、保護者や地域社会の願い等も踏まえ、時と場、ねらいに適した資料を扱いながら進めていく。
- ◇授業、生徒の学びの姿からの考察◇  
 (七月中旬、一学年での公開授業)  
 一 主題名  
 『思いやり・やさしさ』と『行為・行動』  
 二 資料名  
 『真知子の迷い』  
 三 ねらい(主眼)  
 相手への思いやり・やさしさの気持ちを実際に行動で示すことの大切さを感じ、その場面に出会った時、自分が良いと思う自分でできる行動を取ろうとする気持ちと実践力を、より向上させることができる。
- 四 共に考え、共に語り合う授業。考える道徳・議論する道徳に向けた実践



写真1

- ①場面や登場人物のセリフや心情等の部分を、感情豊かに音読(表現)してもらった。(写真1)
- ②資料には記述されていない、主人公の気持ちや心情等を思い、考え、夕食時に母親(役の教師)と語り合う活動を取り入れ、自分と資料中の主人公を重ね合わせてより深く考えることを目指

した。(写真2)  
③中心となる価値の把握の場面で、主人公と異なる価値感を持ち、主人公の思いや考えを(あえて)揺さぶる兄(役の学級担任)との会話を行わせ、議論する道徳の授業を計画した。(写真3)

五 考察、生徒の感想等  
・授業の流れ(主な学習活動)、主題、ねらい等を提示、全体で確認・共有したこと、一時間真剣に考える姿があった。

・教師対生徒の、一問一答形式の活動が多くなってしまった。もう少し、生徒同士でのやりとり、意見交換する場を多くすべきであったと、反省している。  
・文字数がわかるマス目の学習カードに、自分の考えや感想等を記述させたが、全員が一生懸命、きちんと書くことができた。

・役割演技を見ていた周りの生徒の感想等を土台にして、全体の中で意見交換すると更に深まった、と感じている。  
・授業終了で、「役割演技や一生懸命に



写真3



写真2

考えたことが楽しかった。またやりたいたい」という感想は、私にとつてうれしきことであった。

道徳の授業は楽しいので、私は好きです。  
皆さんは、どうですか? (市河 泉)

### 教育会道徳教育委員会の活動

#### 道徳教育委員会

平成三十年度道徳教育委員会では、次のように研究主題、研究内容を設定し、活動してきました。

#### ○研究主題

「友だちと考えを伝え合いながら、主体的に道徳的価値の自覚を深めていく授業」

#### ○研究内容

- (1) 授業参観
  - ① 特別な教科について
  - ② 特別な進め方
  - ③ 評価
  - ④ 小中学校での情報交換
- (2) 授業参観について

#### (1) 授業参観について

実際の授業は、七月に檜川中学校一年生の授業を参観させていただきました。昨年度の研究を基に、思考の深まりを大切にいくための手立てや留意点が具体的に絞られ、示されていました。先生方が役割演技し生徒が答える場面では、生徒は登場人物の思いや気持ちを考え、自分の言葉できちんと相手に伝える姿と

なって表れていました。ワークシートの形式や中心発問の大切さ、資料選びについても授業から学ぶことができました。

十一月一日には道徳教育協議会で同じ一年生の授業が公開されました。こちらの授業については年度末の委員会活動報告書で詳しく載せさせていただきますので、お読みください。檜川中学校の取り組みから学べるものがたくさんあると思います。

#### (2) 特別な教科について

①授業の進め方  
本格実施されている小学校では採択された教科書の題材から授業を行っていきます。まだまだ始まって半年ですので、教科書会社から、指導事例集やワークシート集なども指導書の一つとして配布されていることは大変ありがたいことです。指導書等を参考にしながら、時期や行事などに合わせて、題材の入れ替えをしながら授業を行うことが、多くの学校の実状のようです。

#### ②評価について

塩尻東小学校の実践を紹介させていただきました。研究部会を中心に「道徳教育の全体計画別葉」の作成に一学期から取り組んできました。この「別葉」とは、道徳の時間と教科指導・特別活動等との関連表で、学年ごとに作成されています。この表があることで、一時間一時間の教科学習と道徳が繋がってきます。子どもたちへの学習の関連性がよりはっきりしてきます。教室に掲示する先生方もいるようで、担任だけでなく子どもたち自身も関連がわかるようです。一から作るのは大変な労力と時間がかかりますが、教科書会社からの資料を使うこともでき

るので、各校でも、道徳教育の全体計画別葉の見直しや作成を進めてみてはいかがでしょうか。

#### ③通知票について

小学校の通知票については、教科の評価に続いて記述欄を作り、児童の変容の姿を中心に、毎学期でなくても記述していく学校が多いようです。通知票の記述につなげるためには、毎時間の記録が必要になります。ワークシートなどを使って、できるだけ思考の過程が残せるように、また思考の変容がわかるようにふり返りするための学習の記録を作り、個人ファイルに蓄積していくことも実践されています。毎時間の記録をつなげることで、どのように変容したか、が評価の中心になっていくようです。

#### ④小中学校の情報交換について

小学校は今年度から、中学校も来年度から本格実施の「特別な教科」です。「まづは、やってみよう」と各校の実状や工夫で実践されています。そういった取り組みを参考に、更に試行錯誤を通して各校で実践されていくと思います。

各校の実践を通して様々な取り組みを知りました。これからも先生方に報告できると、情報交換を主に活動していきたいと思えます。(大野幸子)

#### ◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

本号では、「特別な教科 道徳」はじまりました。テーマとして四つの取り組みを寄稿していただきました。ご協力ありがとうございました。

